

## 令和5(2023)年度 住まいとコミュニティづくり活動助成 活動中間報告

### 団体名

真鶴カメラ

### 活動のテーマ

「カメラで社会を見る力」と地域コミュニティの醸成

### 9月までに達成できた事項(箇条書き)

5月第12回 真鶴カメラ講座 オンラインゲスト 新山直広(TSUGI・RENEW) 福井県鯖江市  
まち歩き「岩地区の背戸道」ゲスト 松本茂(松本農園) 真鶴町

- ・ポータルサイト作成について打ち合わせを開始
- ・明治大学 建築学科3年生の真鶴をフィールドワークにした設計実習プロジェクトに参画

6月第13回 真鶴カメラ講座 オンラインゲスト 松場忠(石見銀山生活観光研究所) 島根県大田市  
まち歩き 「新しい道を歩いてみる」ゲスト 川口瞬(真鶴出版) 真鶴町

7月第14回 真鶴カメラ講座 オンラインゲスト アリソン理恵(MIA MIA・ARA) 東京都豊島区  
まち歩き「建築的な視座でまちを歩いてみる」ゲスト アリソン理恵

- ・真鶴カメラで「貴船祭り」の裏方のみなさんを取材。準備の手伝い、当日の参加を発信で呼びかける。

9月第15回 真鶴カメラ講座 オンラインゲスト ミネシンゴ(アタシ社) 神奈川県三浦市

- ・明治大学 建築学科3年生の真鶴でのフィールドワークを実施

### 今後の活動予定と令和6年3月末時点の達成予定事項

#### 今後の活動予定

- ・真鶴カメラ講座・まち歩きの実施(12月・3月)
- ・真鶴町の景観条例「美の基準」の30周年記念イベントにてまち歩きイベント・写真展開催(10月)
- ・明治大学 建築学科3年生の真鶴でのフィールドワーク、オンラインレクチャー実施(10月)
- ・明治大学 建築学科3年生×真鶴カメラ 合同展示会(3月)
- ・真鶴カメラのポータルサイト開設(年内)

地域内の情報共有になるとともに地域外へも届くような真鶴町の人・風景・暮らし・仕事を紹介するローカルメディアを立ち上げる

#### 令和6年3月末時点の達成予定事項

- ・発信技術を養い地域クリエイターを創出、オフィシャルサイトにて定期的な情報発信を行う。
- ・発信・まち歩き・展示会を通して住民に地域課題やまちの価値を伝え、問題意識の共有、シビックプライドの醸成を図る
- ・真鶴カメラの活動を通じた世代や立場を超えた地域コミュニティの形成

# 真鶴カメラ

活動テーマ

## 「カメラで社会を見る力」と地域コミュニティの醸成

助成対象活動に至った理由・背景

人口7000人に満たない小さな漁師町・神奈川県真鶴町の歴史は「抗えない波」との戦いの連続でした。80年代はマンションの建設ラッシュに抗い、条例「美の基準」によって住民の暮らしを守ったものの、その後のバブル崩壊で商店街が潰れて市街地が荒廃。そして近年は移住者が増加傾向にあるが、未だ深刻な人口減少と少子高齢化、産業の衰退という大波と戦っています。波を乗り越えるには、普段暮らしては見えない「社会を見る力」が必要だと考えています。この“まなざし”を培うために『真鶴カメラ』が発足しました。カメラを持ってまちを歩き、人々に話を聞き、歴史を学び地域を再発見することで、地域住民が主体的にまちに関わる機会を創出します。

4月から9月までの活動進捗

### 5月 真鶴カメラ講座 「産業観光」

オンラインゲスト 新山直広さん (TSUGI) 福井県鯖江市



丹南エリアが産業観光の聖地になれる理由③

物見遊山ではない

**体験と学びの旅としての可能性**

▼

“本当の発見の旅とは、  
新しい景色を探すことではない。  
新しい目を持つことなのだ。”

『マムセル・ブルーストノ作家 (1871～1922)』

新山さんは産地の熱量をパワーアップすべく2015年に産業観光イベント「RENEW」をスタート。産業は徐々に回復に向かい、移住者や新規就業者も増加しました。

まち歩き「岩地区の背戸道」ゲスト 松本茂 (松本農園) 真鶴町



真鶴町には「真鶴」と「岩」という2つの地区があります。芥川龍之介の短編小説「トロッコ」にも「岩村」という名前が登場します。ガイド約は松本農園の松本茂さん。(写真右中央) 明治大学・建築学科の門脇耕三先生 (写真右右端) も参加され賑やかな会となりました。

### 6月 真鶴カメラ講座 「生活観光・暮らし観光」

オンラインゲスト 松場忠さん (石見銀山生活観光研究所) 島根県大田市大森町 川口瞬さん (真鶴出版) 真鶴町

第13回 真鶴カメラ講座

テーマ 生活観光・暮らし観光

ゲスト講師 川口瞬さん (真鶴出版)

ゲスト講師 松場忠さん (株式会社石見銀山生活研究所)

6月10日(土)

オンライン講座 10:00～11:40 まち歩き 12:30～15:00

“泊まれる出版社”「真鶴出版」の川口さんは宿泊者に町を案内する「まち歩き」を提供しており、顔が見えるひとりひとりのゲストにまちの魅力を伝えていく事を大切にしています。松場さんは「観光」とは「その地域に存在するよい部分(光)を観る」といいます。それは、2007年に石見銀山が世界遺産に登録されたことで起きたオーバーツーリズムを受けて住民憲章をつくり守った「暮らし」そのもの。古い街並みと共に、生活文化としての暮らしが今も残っているからこそ、世界に誇れるまちなのです。



まち歩き ゲスト 川口瞬 (真鶴出版) 真鶴町



真鶴町は直径7キロメートルの半島。急峻で、背戸道と呼ばれる車が通れない道が入り組んでいるのが特徴です。普段は町外からのゲストに町を案内している川口さん(写真右中央)からまちの日常を体感する「暮らし観光」を学びました。

7月 真鶴カメラ講座 「やってみようをつくる」

オンラインゲスト (まち歩き) アリソン理恵さん (MIA MIA・ARA) 東京都豊島区 藤井明香さん (エフハウス)真鶴町



藤井さんには、自邸を公民館のように住み開く「エフハウス」の活動を伺いました。アリソンさんは、全てがサービス化された都市生活の中では、コラボレーションやプロジェクトを作る実験が大切だといいます。まち歩きでは建築的視座でまちを見ることを学びました。

7月 貴船祭りの参加を呼びかける



日本三大船祭りでもある地元の大祭「貴船祭り」の参加者は年々減少傾向にあります。真鶴カメラで祭りを支える地元住民や漁師をルポタージュし、準備や当日の参加者を募りました。担い手不足だった鹿島踊り手や神輿の担ぎ手、祭り推進本部に参加者を増やしました。

9月 真鶴カメラ講座 「自治とつながり」

オンラインゲスト ミネシンゴさん (アタシ社) 神奈川県三浦市三崎 松平直之 (真鶴カメラ) 真鶴町

まち歩きゲスト 大石和紘さん (真鶴町)



真鶴カメラ松平より、貴船祭り参加の経験を通して祭りが地域にもたらす効果や役割について話しました。三崎にて事業を展開しながら、真鶴町で昨年に美容室とセレクト本屋「本と美容室」をオープンされたミネさんからも三崎での祭りの初参加の経験を伺いました。

9月 明治大学 建築学科3年生 真鶴での設計実習プロジェクトに真鶴町と共に参画



学生が真鶴をフィールドにして架空の建築設計を実施するにあたり真鶴町と協働し、町についてのレクチャー、まち歩きを企画しました。

今年度内にポータルサイトの開設・町内での展示会を予定しています。